

各位



2021年11月9日

会社名：スターティアホールディングス株式会社

代表者名：代表取締役社長 兼 グループ最高経営責任者 本郷 秀之

(コード番号 3393 東証第一部)

問合せ先：取締役 兼 グループ執行役員 植松崇夫

(TEL：03-5339-2109)

## 第2四半期連結業績予想、並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2021年8月25日に公表いたしました2022年3月期第2四半期連結業績予想、並びに通期連結業績予想につきまして、下記のとおり修正することをお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2022年3月期第2四半期連結業績予想数値の修正

(2021年4月1日～2021年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想	7,117	△200	△200	△40	△4.06
今回発表予想	6,991	127	271	394	39.87
増減額	△126	327	471	434	
増減率	△1.8%	—	—	—	
前期実績	5,976	9	31	△15	△1.57

## 2. 2022年3月期の通期連結業績予想数値の修正

(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想	14,750	150	150	140	14.20
今回発表予想	14,750	150	300	405	40.93
増減額	0	0	150	265	
増減率	0.0	0.0	100.0%	189.3%	
前期実績	13,324	21	70	△130	△13.25

## 3. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間につきましては、デジタルマーケティング事業においてデジタルマーケティングツール「Cloud CIRCUS（クラウドサーカス）」のクロスセルと新規受注が堅調に推移したことで、サブスクリプションモデル（継続課金型）のSaaS売上高が好調に推移した一方、ITインフラ事業において、新型コロナウイルス感染症による顧客の営業縮小等の影響や半導体不足によるビジネスホンなどのメーカーの在庫不足の影響により、前年同期からは大幅に売上高、利益は増加するも、計画には届きませんでした。

販売費及び一般管理費において、デジタルマーケティング事業におけるテレビCMの放映時期を9月予定から10月実施に月ずれしたことで、第2四半期の広告費用が大幅に圧縮（通期の広告費投資予定に現段階で変更はありません。）したことと、一部中途採用が計画に対して進んでいないことによる人件費、求人費等の人材関連費用が圧縮いたしました。ITインフラ事業におきましても、WEB集客のコスト削減による広告費圧縮に加え、退職者及び欠員補充ができていないことによる人材関連費用が大幅に圧縮したことで、第2四半期連結累計期間における営業利益が大幅に増加する見通しです。

なお、通期連結業績予想における売上高と営業利益につきましては、現段階で見通しの変更はございません。

また前述に加え、営業外収益において持分法適用関連会社の業績が好調に推移したことによる持分法による投資利益を計上したことと、出資先の投資事業組合の運用益を計上したことで、経常利益が大幅に増加いたしました。

さらに、2021年6月22日に公表した「特別利益の計上および2022年3月期第2四半期連結業績予想、並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、7月に合弁会社設立に伴う関係会社株式売却による売却益416百万円を計上したことと、2021年8月25日に公表した「特別利益の計上および2022年3月期第2四半期連結業績予想、並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、8月に保有する投資有価証券の一部売却を行い売却益148百万円を計上したことで、特別利益が大幅に増加いたしました。

以上のことから、第2四半期連結累計期間および通期における経常利益、親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益が大幅増加する見通しとなり、2022年3月期第2四半期連

結累計期間の業績予想、並びに通期連結業績予想の修正を行うことといたしました。

※上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上